

小山田歴史地図解説

安性寺第18世 竹内宜秀記

安性寺（あんしょうじ）	西暦 1460 年開山の浄土真宗高田派の寺院。
石神（いしがみ）	西暦 500～1500 年頃「山の神」として祀られた場所。
内山村明神宮（うちやまむらみょうじんぐう）	西暦 709 年加富神社の末社で豊受皇大神が当国に御遷座のおり建立された。
浦山八幡山（うらやまはちまんやま）	西暦 1551 年矢田監物来村の時八幡神社を建立した場所。
遠生寺（えんじょうじ）	西暦 1660 年堂ヶ山に浄土宗として開山した寺院。
大楠合池	西暦 1647 年に足見川のため池として掘られた。
岡山（おかやま）	西暦 1489 年円通院（暁覚寺の旧跡）のあった場所。おかね婆さんの所有の土地であったことから俗に「おかね山」とも言われた。
垣内ゆ（かいとゆ）	山田町内を流れる川の村の入り口にある堰（せき）。
加富神社（かふじんじゃ）	江戸時代（1600 年）以降の加富神社。
加富の森（かふのもり）	西暦 1000～1600 年頃、東の宮の時代の加富神社。
神田がそわ〔神田添え〕	加富神社および伊勢神宮内外両宮へ奉納するための餅稻を栽培した場所。

神田がそわ〔神田添え〕	加富神社および伊勢神宮内外両宮へ奉納するための餅稻を栽培した場所。
観音谷（かんのんだに）	矢田監物の死後 16??～1737 年の間、家臣であった平尾某（なにがし）が観音堂を建て万松寺の十一面観音を移し菩提を弔った場所。
暁覚寺（きょうがくじ）	西暦 1686 年岡山円通院より現在の地に移築。浄土真宗本願寺派寺院。
神森（こうもり）	0～500 年頃加富大明神の社（やしろ）が建てられた場所であり小山田の発祥の地とも言える。
神森ゆ（こうもりゆ）	山田町内を流れる川の源流を止める堰（せき）。

コレラ山	明治 10 年全国的にコレラ病が流行した。隔離所は近くの別地であるが、俗にこの山をコレラ山と呼んだ。
斎山（才山）八幡宮（さいやまはちまんぐう）	西暦 0～1000 年頃、神森（かふもり）に大明神を建てた時代から西の宮にに移行する時代、神社の祭礼を行うための場所。
榊田（さかきた）	西暦 100 年～300 年頃榊（さかき）を立て豊作を祈願した田畑名。同時に神森（こうもり）に加富大明神のお社（やしろ）を建てた。
さかさま	東向きの川の流れがすぐさま西向きになっている場所。
才山ゆ（さやまゆ）	山田町内を流れる川の才山付近にある堰（せき）。
釈迦垣内（しゃかかいと）	釈迦堂に奉納するための供養田。
娑俱神（しゃぐじん）	東の宮時代に西ノ宮の娑俱神（山の神）をこの地に移転した。
佃（つくだ）	国司に年貢を納めるための田地。
堂山釈迦堂（どうやましゃかどう）	氏佛（うじぶつ）釈迦如来座像が祀られていた場所。（向山、法源寺とも呼ばれた）
流れの宮（ながれのみや）	西ノ宮の時代、鎌谷川に大洪水があり、その時上流から祠（ほこら）が流れ着きこ

流れの宮（ながれのみや）	西ノ宮の時代、鎌谷川に大洪水があり、その時上流から祠（ほこら）が流れ着きこの場所に止まった。そこに祠を建てて「流れの宮」と言った。
西の宮（にしのみや）	西暦 500 年頃、旧垣内（ふるかいと）が小山田の中心であった頃、社（やしろ）を建て天照大神（あまてらすおおみかみ）を祀った。
万松寺（ばんしょうじ）	西暦 1551 年矢田監物が、主君足利義晴の菩提を弔うため建立した寺院。
姫切り（ひめぎり）	田へ水を引くため命をかけて堰（せき）を切った勇気ある女性の伝説の場所（「嫁落とし」とも言う）
平野新田（ひらのしんでん）	西山村の発祥の地。江戸時代初期、京都の人、平野清左衛門が開墾した田畑である。
旧垣内（ふるかいと）	西暦 600 年頃農耕民が始めて集落をなした場所。
法源寺（ほうげんじ）	西暦 1866 年、もと向山にあった釈迦堂（法源寺）を村内へ移築したが、明治 6 年（1875）排仏毀釈により廃寺となる。

へくち谷（幣鑑谷）（へいくじだに）	西暦 500～1000 年頃神社の神殿の屋根を修復のために萱（かや）、すすきを収穫した場所。
法龍寺（ほうりゅうじ）	三重 88 ヶ所霊場の一つで、不動の滝の修行者信者達の冥加金により昭和期に建立された。
的場（まとば）	矢田監物在村の折、合戦のための弓、矢、鉄砲の訓練場所。
水飲谷（みすのみだに）	この地に水水飲谷という字（あざ）があった。この地を所領した伊藤一族四、五戸が出百姓し西山を開墾した。
御供山（みそのやま＝みそなえやま）	西暦 1000～1500 年頃、伊勢神宮の貢米と加富神社の供料の稲穂を積み置いた場所。
宮蔵田（みやぞうた）	西暦 1000～1500 年頃、加富神社および内外両宮に稲を奉納するための田地。
向山（むこうやま）	古墳時代（0～500 年）の遺跡が発掘された場所。
館（やかた）	西暦 1551～1600 年頃、矢田監物の宅地兼城址のあった場所。
矢田広（やだびろ）	西暦 1550～1590 年頃、矢田監物が出陣のおりに用いた広野。
夜泣きの井戸（よなきのいど）	江戸時代、夜泣きする子をおぶってお参りすると、泣きやんだといわれる、祠（ほこら）と池のあった場所。
和田ヶ平（わだがひら）	古墳時代（0～500 年頃）の遺跡の発掘場所。